





# こども食堂の輪 全国ツアー始動

東京都内でキックオフイベント



各地で広がる「こども食堂」をさらに広げるための全国ツアーがスタートしました。

## 「地域に住むみんなの取組み」へ

キックオフイベントを主催した実行委員会代表で NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長の栗林知絵子さんが、ツアーの開始を宣言し、「地域で困っている子どもやお母さん



全国ツアーの開始を宣言した栗林さん

さんに会い、自分にながができるのかを考えた一つが、こども食堂。地域の住民やささまざまな団体がつながり、子どもたちにながができるのかいっしょに考えていきたい。子どもたちの笑顔が増え、広がる取組みにしてほしい」と、想いを語りました。



2016年9月28日に東京都内で開かれた「広がれ！こども食堂の輪！」全国ツアーキックオフイベントでの集合写真。

全国ツアーに関する情報は、ホームページで見ることができます。<http://kodomoshokudo-tour.jp/>

## 長野県での取組を事例報告

第2部は、地域との連携を促すために、各地で「こども食堂」に取り組んでいる事例報告を受けパネルディスカッションを行いました。

長野県からは、長野みらい基金の高橋理事長（写真右）と信州子ども食堂ネットワークの青木事務局長（写真左）が報告し、県内での取組実績と様子などを、写真を交えて紹介しました。



「広がれ！こども食堂の輪！」全国ツアーキックオフイベントの様子は、YouTubeで見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=0QIJ2xSid1Q>

本紙は、長野県内の食と農に関する情報をナガプロで発信している伝える食と農リンクネット信州の協力で編集・試作しました。<http://linknet.naganoblog.jp>

試作号は、ロゴと名称などが決まりましたら、改めて再編集します。お気づきの点やご要望などがございましたら、事務局までお知らせください。

<編集> 信州子ども食堂ネットワーク事務局

フリーダイヤル 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 信州子ども食堂 デザイン募集

毎号ここへ入ります→



各地で広がる「子ども食堂」の取組を紹介しあう『信州子ども食堂ネットワーク便り(仮称)』を、一定の形を整えて発信していきたいと考えています。

楽しさと成果を共有し、苦勞を分かち合えるような紙面をめざし、親しみを持っていただけるよう、当紙の右上を飾るロゴ・シンボルマーク・イラストなどを募集します。

だれでも、なんでも  
いくつでも応募してください

## ◇デザイン要件

「信州子ども食堂ネットワーク」の文字を入れたシンボルマークのデザインあるいは文字だけのデザインや、「子ども食堂」をイメージしたイラストなど、なんでも構いません。手書きでもOK。ただし、応募者オリジナルのものに限ります。

採用作品は、使用の際に一部を加工や修正をすることがありますので、あらかじめご了承ください。

## ◇応募方法

応募作品は、お名前と連絡先を添えて事務局へお届けください。郵送かメールまたは手渡しでも可。

## ◇応募期間

2016年11月30日  
必着でお願いします



↑「広がれ！子ども食堂の輪！」全国ツアーで用いられているイラスト。公式パンフレットでは、「子ども食堂は食事を提供するだけでなく、子どもが子どもたちどうして、あるいは地域のさまざまな大人たちとふれ合うことができる交流の場所でもあると考えています」との説明が添えられています。

←こちらが全国ツアーの立体ロゴ

全国ツアーに関する情報は、ホームページで見ることができます。<http://kodomoshokudo-tour.jp/>

## ◇採用作品の取扱

本紙をはじめ、広報物やWebなどで使用します。採用作品に関する著作権その他一切の権利は、当事務局に帰属し、採用者から無償で譲り受けるものとします。また、採用作品は複数点になる場合もあります。

## お礼は、賞状と栄誉と感謝だけ

「信州子ども食堂ネットワーク」は、みなさんの志に支えられている活動ですので、ご応募いただいた作品を採用した場合でも賞金や賞品はありません。あらかじめご了承ください。

試作号は、ロゴと名称などが決まりましたら、改めて再編集します。お気づきの点やご要望などがございましたら、事務局までお知らせください。

## 【応募作品の提出先】

信州子ども食堂ネットワーク事務局  
〒399-0011 松本市寿北 5-4-28-1  
NPOホットライン信州内  
「子ども食堂ロゴ応募」あて  
メール [hotline@kki.biglobe.ne.jp](mailto:hotline@kki.biglobe.ne.jp)  
件名は「子ども食堂ロゴ応募」で

## <編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

フリーダイヤル 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 子どもと誰でも おいでなして

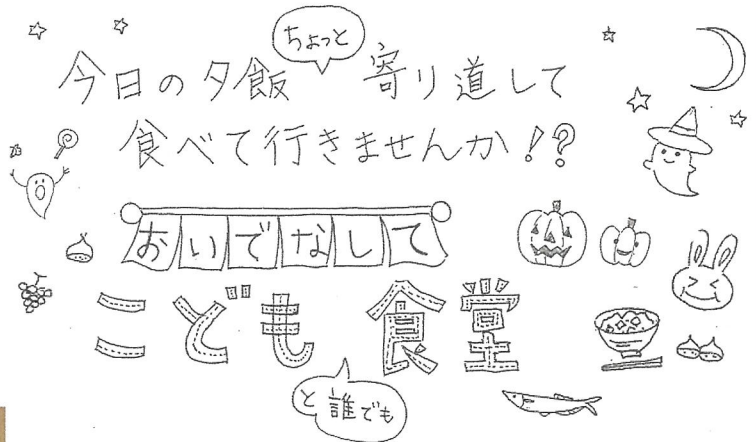
長野市上高田 宅老おいでなして



## 予約不要で、誰でもどうぞ♪

長野市上高田の「宅老おいでなして」で月に3回開いている「子どもと誰でも食堂」。(当初は、幼児～小学生くらいまでの親子を対象に考えた「子ども食堂」でしたが途中から改名しました)

予約不要で、参加費は1人300円。旬の食材をおいしくいただく「一般家庭の夕食」をイメージして運営しています。



↑ご近所と上高田保育園で配った10月の開催を案内するチラシの一部。秋の食材とハロウィンがいっぱい♪

←写真は10月4日の様子。メニューは、朝から薪と羽釜で炊いた栗おこわ、にらたま汁、煮物、サラダ、なすの漬け物と季節の果物など。

## <半年間の開店実績>

第1回は、今年(2016年)3月17日。賛同してくれたボランティアさんといっしょに「自分たちができること」からはじめ、子ども12人を含む計39人がご来店くださいました。

月2回開店の3~4月。5月から月3回へ。8月13日は、いつもの場所を飛び出し、みんなでおやきとうどんづくりを楽しみました。(下写真2枚)



9月2日まで半年間の開店は17回。のべ子ども230人を含め、計461人(運営のボランティアを含む)にご来店いただきました♪

## 10月のご案内

13日(木曜日)

25日(火曜日)

17時から19時頃の間、おこしください。(20時頃までやっています)

本紙の右上↑に入れるロゴ・シンボルマーク・イラストなどを2016年11月30日まで募集しています。誰でもご応募できます。

### 【応募作品の提出先】

信州子ども食堂ネットワーク事務局  
〒399-0011 松本市寿北5-4-28-1  
NPOホットライン信州内  
「子ども食堂ロゴ応募」あて  
メール hotline@kki.biglobe.ne.jp  
件名は「子ども食堂ロゴ応募」で

本試作号は、ロゴと名称などが決まりましたら再編集します。お気づきの点やご要望などがございましたら、事務局までお知らせください。

## <編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



いただきます

# 命をいただく 感謝の言葉

10月15日 長野市「信州子ども食堂」



## みんなでいっしょに「いただきます」

10月15日に長野市ふれあい福祉センターで開いた「信州子ども食堂」。

食事の前に、食欲を促す簡単なストレッチを紹介。リズムに合わせて肩を叩き、顔のツボを押し、唾液の分泌を促しました。



“いただきます”の前には、改めてその意味を紹介し、「命をいただく感謝のありがとう」に、みんなでいっしょに声と手を合わせました。



今日のメニューは、オムライスにフライドポテト、野菜たっぷりのコンソメスープ、

## 冊子「地域文化」で紹介されました

公益財団法人八十二文化財団が発行する季刊「地域文化」No.118で、「地域の子どもの居場所を目指して 子ども食堂」が特集されました。

子ども食堂は、「たくさんの人と語りながら食事をする楽しさを体感する場、見守ってくれる大人たちの存在を認識する場、自分を受け入れてくれる居場所、そして地域での世代間交流の場など、さまざまな役割を期待されている」とし、「一人でも多くの子どもたちの“居心地のよい場所”となることを期待したい」と綴っています。



地域文化 No.118  
2016 秋の表紙→



午前中の子どもたちは、タブレット型コンピュータに夢中。ゲームや算数、国語の勉強などを楽しみました。

→同時開催の無料子ども用品市には、子ども服や学用品が並びました。



信州子ども食堂

次回は **11月13日(日曜日)**

作って食べよう! ぎょうざ編  
調理を手伝ってくれる方は、エプロンなどを持参してください

11時~14時  
長野市ふれあい福祉センター

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



※この場所へ入れるロゴ・シンボルマーク・イラストなどを募集しています。応募期間は2016年11月30日まで。

【応募作品の提出先】

信州子ども食堂ネットワーク事務局  
〒399-0011 松本市寿北 5-4-28-1  
NPOホットライン信州内  
「子ども食堂ロゴ応募」あて  
メール hotline@kki.biglobe.ne.jp  
件名は「子ども食堂ロゴ応募」で

# 市長へ協力要請 見えにくい貧困

2016年6月2日 安曇野市長との懇談報告

## 宮澤市長のご対応に感謝

安曇野市で“子ども食堂”を開くにあたり、会場となる施設を無料で提供してもらえたら、そんな願いをもって臨んだ市長との懇談。

市の厳しい財政事情を知らされ難しかと感じた先、「使用していない施設を活用して地域の交流が深まれば、いい話だ」と、担当部署で事例などを調べるようにと市長。

施設が無料になれば、そのお金を子ども達のために使うことができます。本当にありがたいことと感謝します。



写真手前が安曇野市の宮澤市長。市からは関係部局長ら5名も同席。NPOホットライン信州側は、青木専務理事・労協ながの海野副理事長、内川南信事業所長、酒井サポーターほか4名で要請しました。

## 見えにくいが 実在する貧困

市長から『そもそも

この地域に貧困と言われるような子どもがいるのか?』という質問。

たしかに、その存在を疑うような日常ですが、そのような子ども達は実在します。ホットラインの電話相談にも安曇野市の方がいらっしやいました。夜9時に子どもだけで買い物をしていたり、身なりが綺麗とは言えなかったり、少なくとも普通の家庭ではないだろうと思える子を目にする可能性があります。

そうした子ども達だけでなく、両親が共働きの家庭で孤食をしている子や、地域の大人たちとふれ合う機会のない子にも、この“子ども食堂”で、『近くに信頼できる、頼ってもいい大人たちがいるんだよ!』ということに合わせて伝えたいという思いがあるのです。



子ども時代に、大げさにいえば、世界は楽しく素晴らしく、困ったときには助けを得られると知ることは、その後困難な状況に陥っても立ち直っていける一助になると思います。

私たち大人は、子ども達の未来を明るく照らしてゆくため行動しなくてはいけないと、この機会に改めて思いました。

有意義な懇談の機会に出席させていただきありがとうございました。

NPOホットライン信州サポーター 酒井 百世

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 信頼関係を築き 広げる地域の輪

長野市での懇談概要



## 長野市の呼びかけで懇談

長野市で、子ども食堂の運営や課題などをめぐって2016年7月・9月・10月と3回の懇談を重ねています。

## 子どもたちの現状は？

貧困が見えにくい中、「子ども食堂に参加する子どもの様子は？」、「子どもを支えるために必要なことは？」などの声や「子どもたちを取り巻く環境を変えていく必要がある」という指摘も。

子どもたちをめぐっては、経済的な問題だけでなく、孤立や孤食、居場所がないなどの状況が加わって「心の貧困者」が増えているのが問題です。



9月21日に長野市役所で開いた意見交換会には、長野市環境部の井上部長の呼びかけで、市環境部・子ども未来部、長野ライオンズクラブ、長野篠ノ井ライオンズクラブと信州子ども食堂ネットワーク（NPOホットライン信州、絆塾）、あわせて18人が出席しました。（写真はイメージで、前述のメンバーとは一致しません）

## 「食」でつながる双方の思い

10月13日の懇談には、長野市議会のつげ圭二議員も参加。食材を提供する側と受け取る側について、単なる「食（もの）」の一方通行ではなく、双方が「食」を通じて人のつながりを感じあえる機会とする。子ども食堂は、食事の提供だけでなく、食に対する感謝の気持ちを育む場や子どもたちの居場所づくりなど重要な役割があることを理解しあいました。

また、市のご配慮で「信州子ども食堂」の会場として、長野市ふれあい福祉センターを優先借用できるようになりました。



## 信頼関係を築き、輪を広げよう

「子ども食堂」の取り組みを広げ、安定・継続させるためには、地域で輪づくりを進めることが大切です。長野市では、今後も定期的に懇談の場を設けて、さまざまな団体・個人との関係を深め信頼関係を築いていくこととしています。

※本試作号は、情報発信の参考として、順不同で作成しています。ロゴと名称などが決まりましたら再編集しますので、お気づきの点やご要望などがございましたら、事務局までお知らせください。

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 活動を共有し 先進事例に学ぶ

10月23日 信州子ども食堂ネットワーク会議



2016年10月23日、「信州子ども食堂ネットワーク会議」を長野市で開きました。

長野県各地での子ども食堂の報告と山梨県で先進的に取り組んでいる米山けいこさんの講演などを受けながら活動を共有し、問題や課題を考える機会となりました。



## <各地の報告から抜粋した工夫例(一部)>

- 食事前の学習時間と食後のレクリエーションの時間を設けている。
- 近くの小学校や保育園の協力を得て、全家庭へチラシを配っていただいた。
- 手作りの家庭料理を提供し、レシピを口伝手で教えている。
- 毎回「みんなで作って食べる」ことを楽しみながら、食育に努めている。
- 下ごしらえや後片付けなど、全員に自分の役割を持ってもらっている。
- 会場と日程の固定が安定・安心感につながり、リピーターが増えた。
- 公民館を利用する際は、地域の方々の理解が必要と実感した。
- 夏休みの連日開催が、参加者の仲を深める良い機会になった。
- 前後にスタッフで打ち合わせを行い、手順を確認し、反省を次に活かしている。

会場の長野市生涯学習センターには、当初の予想を大きく上回る約70人が集まり、関心の高さがうかがえました。

参加者は、長野県子ども家庭課と長野市環境部及び子ども政策課をはじめ、各種のNPO法人や福祉関係団体、市民団体、「何かをしたい」人たちや大学生など多彩。約20人が日頃の取組や想いの一部を発表し、それぞれの熱い想いに突き動かされるような会議になりました。

## 11月12日に「子どもの貧困対策全国キャラバン in 長野」を開催します

会場は、長野県教育会館ホール  
第一部<全体会>10~12時  
第二部<意見交換会>13~16時

※参加は、FAX か Web サイトからお申し込みできます

**子どもの貧困対策 全国キャラバン in 長野**

日時 2016年11月12日(土) 会場 長野県教育会館ホール

第一部(全体会) 10時~12時  
第二部(意見交換会) 13時~16時

※参加は、FAX か Web サイトからお申し込みできます

お問い合わせ: 020-914-994

主催: 特定非営利活動法人NPOホットライン信州

全国フードバンク協議会代表で、フードバンク山梨理事長、「広がれ、子ども食堂の輪! 全国ツアー」実行委員会相談役などを努める米山けいこさんから、現在100世帯ほどへ食料を届けているフードバンク活動を通して見えてきた貧困の実態と課題などをお聞きしました⇒



<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 温泉寺で楽しく 美味しく初開催

10月29日 第1回信州子ども食堂 with 温泉寺



労協ながの直営店「まるや」主催で開いた「第1回信州子ども食堂 with 温泉寺（おんせんじ）」。

子ども6名と一般大人・ボランティア・スタッフ総勢23名が参加。みんなで作った美味しい食事。腹話術ヒロ・タッキーに拍手喝采で大満足でした。（2016年10月29日、温泉寺は長野県諏訪市湯の脇にある臨済宗妙心寺派の寺院です）



## みんなで一緒につくりましょう

メニューはカレーライスとサラダ。子ども達も一緒に野菜を切り、皮をむき、お米とぎにトライ。見ていると楽しそうな表情。さて、ご飯を炊きましょう、と思ったら「えっ!!炊飯器が無い!？」

あわててみんなで探すもどこにも見つからない…。住職の奥さんに聞けば、炊飯器ではなく本格的な「炊飯釜」で、びっくり!なハプニングでした。



真剣! ジャガイモの皮むき

## お寺のご協力に感謝いっぱい

場所を提供してくれた温泉寺の副住職は、「お寺としても前からこのような取り組みを検討していた」とのこと。残ったカレーをお寺で振る舞ってくださるなど、ご協力に感謝するばかり。

参加者はとても満足された様子でした。次回に向けた課題は、役割分担と段取りの事前打ち合わせ。時間配分には、少し余裕が必要でしょうか。



13時近くになって、ようやく出来上がり。「もう待ちきれないっ!」子ども達も「ここはお寺なので」と、副住職にお経を唱えていただき、みんなで手を合わせて「いただきます!!」しました。

## 拍手喝采! 腹話術タッキー

かわいい羊のめえめえちゃんとはヒロ・タッキーの絶妙な掛け合いに、子どももおとなも大喜び。「おいしいものをたくさん食べると、そこのお母さんみたいになるよ。羊が大きくなると何になる?」「おもしろ〜い! もう1回みたい〜」帰り際には、めえめえちゃんのお別れに涙ぐんでいる子も。この面白さ、機会があったらぜひご覧ください!



### <お問い合わせ>

労協ながの 直営店「まるや」  
営業時間 10時から19時  
定休日 水曜日  
TEL 0266-52-5766

次回は11月 日(土曜日) 11時から

諏訪市湯の脇 温泉寺

参加費は、子ども無料・おとな300円です

調理できるようエプロンと三角巾などをお持ちください

<編集> 信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 被災地支援に お菓子を寄贈

大町市 マルイ大町店



NPOホットライン信州に届くダンボール箱  
いっぱいのお菓子と心温まる手紙。

お客様にとって不要な景品を被災地支援と「こども食堂」で役立ててと、大町市にあるパチンコ店「マルイ大町店」の皆様がたびたび送ってくださいます。



↑ マルイ大町店でダンボール箱いっぱいのお菓子を受け取るNPOホットライン信州の青木専務理事（右）



熊本地震への募菓子としてお預かり致します

特定非営利活動法人NPOホットライン信州を通じ被災者および被災地の支援に充てられます。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

↑ マルイ大町店の店内カウンター前に置かれた「募菓子箱」。賞味期限が近いお菓子は、こども食堂で使わせていただいております。



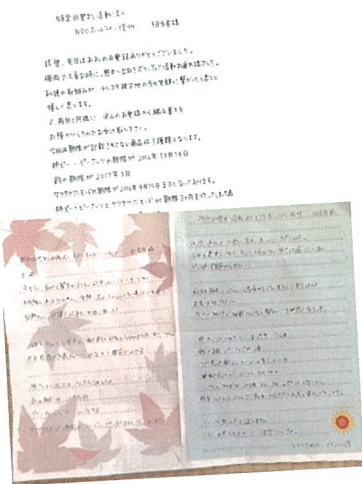
## 毎回添えてくださる温かいお手紙 (複数枚から一部だけ紹介します)

(前略)今も尚、各地で震災が起こり被災された方々には心からお見舞い申し上げますと共に、復興に尽力されている皆様には安全に留意され、ご活躍されることをお祈り致します。

此度も沢山の皆様から端玉菓子をお預かりしたので、お受け取り下さい。(中略)これから寒い冬を迎えますが、どうかお身体を大切に、ご自愛下さいませ。マルイ大町店 スタッフ一同

マルイ大町店の取組を報じた新聞情報によると、発案は阪神大震災を経験されたスタッフの方とのこと。「子どものころ震災によって食べものがなくなり、満足に食事できなかった。被災地の子どもたちに喜んでもらえれば」とコメントがありました。

いつもありがとうございます。



<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ ☎ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 東御市で 子ども食堂紹介

2016年11月13日 東御市くらしを見直そう展



11月13日（日曜日）、東御市中央公民館で開かれた「平成28年度東御市『くらしを見直そう展』」で、「信州子ども食堂」の取り組みを紹介するとともに、内閣総理大臣からの「子供の未来応援国民運動」へのメッセージ（中央）を佐藤千枝実行委員長へ手渡しました。



11月8日に総理官邸で開かれ、信州子ども食堂ネットワークの青木事務局長が出席した「子供の未来応援国民運動一周年の集い」に寄せられたメッセージ→支援の現場で、子供たちに寄り添い活動いただいている方々を通じて、直接子供たちに届け、語りかけていくことになっています。

にっぽん みらい にな  
日本の未来を担うみなさんへ

あなたは決してひとりではありません。  
子ども食堂でともにテーブルを囲んでくれる  
おじさん、おばさん。  
学校で分らなかった勉強を助けてくれる  
お兄さん、お姉さん。  
あなたが助けを求めて一歩あみだせば、  
そばで支え、その手を導いてくれる人が  
必ずいます。  
あなたの未来を決めるのはあなた自身です。  
あなたが興味をもったこと、好きなことに  
思い切りチャレンジしてください。  
あなたが夢をかなえ、活躍することを、  
応援しています。



↑メッセージを受け取り、「子どもの未来を切り開く活動をしていく」と力強い決意を述べた佐藤実行委員長

平成28年11月8日  
内閣総理大臣

安倍晋三

## 非常食の試食でにぎわった 信州子ども食堂の出展ブース



次々と多くの市民が訪れ非常食を味わい、「おいしい！」笑顔に、「おかわり！」の声も響くにぎやかな1日でした

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# SBC テレビ取材 おいでなして

長野市 宅老おいでなして



長野市上高田で開いている「こどもと誰でも食堂」に、SBCテレビの取材が入りました。(2016年11月18日)

## みんなで話しながら楽しい食事

この日の来店は、17時過ぎから20時までの間に入れ替わりで30人余。ときどきテレビカメラに緊張しながらも、ワイワイにぎやかに、みんなで美味しい食事を楽しみました。

SBC NEWS WIDE (月~金、午後6:15~6:55)で11月下旬に放送されるそうです。(詳細は未定)



今日のメニューは、むかごご飯に煮物、サラダ、みそ汁と漬け物など。

「むかご(山芋のツルに付く小さな芋のような実)」や「はやとうりのカレーピクルス」、「大根の牛乳漬け」、「食用菊」など、初めて食べるものも多く、昔ながらの郷土の味をおいしくいただきました。



取材の合間に、小学生がお仕事体験。ずっしりと重いテレビカメラを肩へ載せていただきました。



このカメラ、お値段がなんと800万円と聞き、まわりのおとなたちが大仰天!! あわてて静かに、そ〜〜と、お返ししました。

## こどもと誰でも食堂 12月の予定

5日(月曜日)	予約不要で、参加費は1人300円。17~20時頃の間どうぞ。
16日(金曜日)	お問い合わせは、090-5426-3764(高橋)まで。
29日(木曜日)	

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください

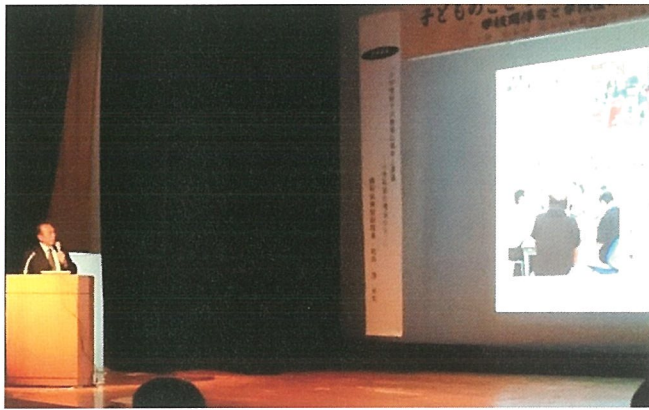


# 現代の難問 見えない貧困

## 松本市 子どもの貧困考えるフォーラム



松本市で開かれた教育フォーラム「子どもの貧困について考える」で、信州子ども食堂ネットワークの青木事務局長(NPOホットライン信州)が講演し、「見えない貧困」について関係者に理解を求めました。(フォーラムは、一般社団法人 松本市医師会が、松本市と松本市教育委員会との共催で、2016年11月19日に松本市Mウイングで約100名が参加しました。



NPOホットライン信州・信州子ども食堂ネットワークの青木事務局長がパワポで「心の貧困について」説明。

### 心の貧困(自己肯定感の欠如)対策が必要

NPOホットライン信州で受けている無料電話相談や、信州子ども食堂の取り組みなどで感じるのは、自己肯定感(右下参照)に欠ける「心の貧困」が問題。

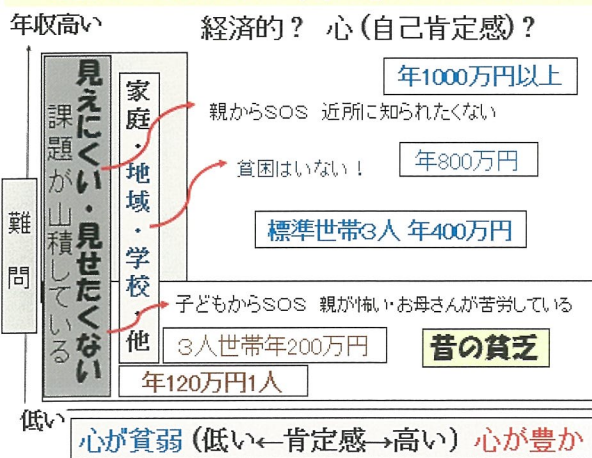
また、現代における「貧困」は、家庭内はもちろん、地域や教育現場で見えなくしている現状がある「見えにくい・見せたくない貧困」。

同じく基調講演した飯田市の健和会病院の和田副院長からも、「貧困は恥だ、自己責任だ、という風潮があり、当事者は『助けて』と言いつけない」との指摘がありました。

#### <講演資料の一部>

自己肯定感とは、自分という人間を丸ごと受け止めてもらえることから生まれる。「あなたでいいよ」ではなく「あなたがいいよ」と言ってもらえること。「ありがとう」の言葉をもらえること。 “あなたがいてくれて、ありがとう”

### 現代における「貧困」とは何か？



松本市が8月に1人親家庭のアンケートの結果を紹介。年収200万円未満の家庭の子どもが進学希望者の割合は、それ以上の家庭に比べ低かったなど報告。

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 阿部知事ご来店 和やかに交流

2016年11月19日 信州子ども食堂 in こもろ



小諸市で9回目になった「信州子ども食堂 in こもろ」に、阿部守一長野県知事が奥様と駆けつけてくださいました。毎回ご案内を差し上げていたとはいえ、急な連絡にスタッフは大慌て。知事ご夫妻の気さくなご対応で、子どもたちも和やかに笑顔で食事をしました。



この日の参加は、見学に来てくださった「信州子ども食堂 in 飯田」の運営スタッフを含め、約50名。食後、スタッフ一人一人に知事から声をかけていただき、みんなで記念撮影に名刺交換にと、にぎやかに交流できました。

今日のメニューは、お好み焼きに焼きそば、おにぎり、りんご煮。NPOホットライン信州経由でいただいた「キューピーのコンソメスープ」と「マルコメの甘酒」もあってにぎやか。ただ今回も「お好み焼きに添えた紅シウウガ」や「りんご煮でなくて生のほうがいい」と相変わらずの好き嫌いが。子ども食堂の取組を通して、好き嫌いをできるだけ無くすことも目的の一つと思いました。



一人一人がお好み焼きを焼き、共に食べる楽しさ、家に帰ってからの会話などで、何か心に残るものがあれば、この「子ども食堂」はそれなりに意義があったのではないかと思います。

## 食べ物をテーマにかるた作り

初の試み。子どもたちが持ち寄った牛乳パックを使い、読み札と取り札を1人5枚ずつ作成。「はさみで切るのには手が痛い」「頭文字の【を】と【ん】って？」と苦闘。スマホで検索し、名古屋名物の「をちこち」を見つけた子に「さすが今の子どもは違う」と大人たちはびっくりでした。



今後も「食を通じた世代交流で市民同士が支え・助け合う、ふれあいのまちづくり」をめざして続けていきます。

知事を囲んで記念撮影。「ウサギ特別交流隊」の三輪さん、長野県シニア大学佐久学部の皆さん、「信州子ども食堂 in 飯田」スタッフの皆さん、そして「信州子ども食堂 in こもろ実行委員会」のNPOホットライン信州、相生区、青少年児童育成会、そえ木の会、消費者の会ほか有志の皆様、キャベツ・ネギ・りんご・にんじんを寄付してくださった皆様、本当にありがとうございました。



<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ



0120-914-994

特定非営利活動法人NPOホットライン信州

ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 子どもたちにおふくろの味を

長野市 宅老おいでなして



2016年12月2日のSBCニュースワイドで、長野市上高田で開いている「こどもと誰でも食堂」の様子が放映されました。

運営する高橋奉子さん(左)はインタビューに応え、「自分が長時間労働で思うように子育てができなかった」経験と「子どもたちに昔懐かしい郷土料理など、日本の食事を提供したい」と想いを語りました。



## お母さんたちの感想は

子どもを連れてお母さんたちが、「子育てサークルで聞いて」、「保育園でチラシを見て」と次々に訪れ、「こんなにたくさんの料理を自分で作るの難しい」、「自分では作らない料理が出てくるので勉強になる」と感想を伝えていました。



番組内で長野県内の「こども食堂」に関して、「現在は県内に約20ヶ所、延べ3,000人が利用」と紹介されました。



気軽に立ち寄り、誰でも参加できる食堂は、世代を超えて初対面の人とも楽しく交流できます。

子どもたちも「楽しい」、「おいしい」と、インタビューに応じていました。

## こどもと誰でも食堂

<12月の予定>

16日(金曜日)

29日(木曜日)

予約不要で、参加費は1人300円。17~20時頃の間にご予約。お問い合わせは、090-5426-3764(高橋)まで。

参加のきっかけなどをたずねられた運営スタッフのみなさん

いつもありがとうございます

「いまの子どもの様子に触れられる」

「それを何か仕事というより活かせることをやりたいなと」

「宅老所にお手伝いに来ていて、その後でこれを始めると言った時にそのまま流れで」

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# おにぎり作り 住民同士が交流

長野市 さんぼんやなぎ食堂



2017年1月から「信州子ども食堂・さんぼんやなぎ食堂」を月1回開く「さんぼんやなぎプロジェクト」(地域有志の集まり)が、活動紹介を兼ね住民同士が交流する機会として「芝生マルシェ」を開きました。

(2016年12月4日、長野市の三本柳中央公園↑、両側に「信州子ども食堂」ののぼり旗を立て、来場者をお迎えしました)

## 世代を超えて楽しく交流

おにぎりもお味噌汁も「自分の好きな具を入れる」楽しさがあり、子ども親もスタッフもにぎやかに交流できました。

子育てから離れた世代の方々からは、「なにか協力できることはないか」とたくさん声をかけていただき、地域の方々の協力を得て、子ども食堂を長く続けていきたい。今後の活動で、世代や立場を超えて地域の結びつきが深まれば、と思いました。



「このおにぎり、おいしいね」と言いに来てくれたお子さんもいました



好天に恵まれ、予想を上回る大勢の親子連れなどでにぎわいました。参加者は子ども82名・おとな76名の合計158名。

おにぎりは150食・お味噌汁は120杯出ました。



信州子ども食堂「さんぼんやなぎ食堂」  
2017年1月29日(日曜日)  
・午前10時から午後2時まで  
・三本柳地区センター 1階和室  
ぜひお立ち寄りください

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 地域で活動する 女性の奉仕団体

国際ソロプチミスト長野ーみすず



信州子ども食堂ネットワークの青木事務局長が、「国際ソロプチミスト長野ーみすず」の例会で、「子ども食堂の現状」を伝えました。(2016年11月21日)

以下、「国際ソロプチミスト長野ーみすず 奉仕プログラム委員会」の田幸久子委員長からいただいたコメントの一部を編集して掲載します。

## 聞いて知った「食の貧困」の現状

子どもの食の貧困は都会の問題で、田舎では縁の無いものと思っていましたが、なぜ貧困が起こるのか、どうすれば問題解決につながるのかなど、現在の状況を聞き勉強をさせていただきました。

「信州子ども食堂」は、決して経済的に貧困だからではないこと、地域の子どもからお年寄りまで誰でも参加できる「居場所」を目的にしていることがわかりました。

## 「地域の子ども達」のために活動を

「国際ソロプチミスト長野ーみすず」も毎年、食の支援活動「フードドライブ」に参加していますが、その活動の一環が「子ども食堂」への



お手伝いにもなっていること知りました。これからも「地域の子ども達」のために活動を続けて行きたいと思います。



地域の居場所として、多様性のある「信州子ども食堂」の必要性報告。



国際ソロプチミスト長野 - みすず  
会長 市川由紀子

## 地域社会に役に立つ 女性の活動を！20年

ソロプチミストとは、ラテン語で「女性にとって最良のもの」を意味します。

その主たる目的は、教育の向上、保険と救命の向上、貧困の軽減と予防、優れた市民性と地域社会開発の向上、人権、平和、平等、多様性の向上であります。

国際ソロプチミスト長野 - みすずは長野県で9番目のクラブとして1997年に創立され、以来、主に女性の教育、地位向上に関連した奉仕活動に専念して参りました。長野県立「長野養護学校」、「長野県女性相談センター」、NPO法人「難民を助ける会」「スペシャルオリンピックス」、癌撲滅運動「リレー・フォー・ライフ」等へ継続的に支援させて戴いております。

2001年には文化学園長野高等学校生徒会の皆様をSクラブ（共に手を携えて学校、社会に奉仕する契約）としてスポンサーさせていただきました。DV被害者が自立するための助成金「みすず基金」も運営しております。来年、認証20周年を迎えますが、これからも会員一同心をひとつにして地域社会にお役に立てる

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 長野県庁で初の フードドライブ 信州子ども食堂 応援ドライブ “もったいない”を笑顔に変えよ



家庭で眠っている食品を「食品ロス」になる前に、生活困窮者の支援や「子ども食堂」で活かすため、長野県庁ではじめて「もったいない」を笑顔に変えよう

！ 第1回県庁オフィス・フードドライブ」が12月8日9日、長野県庁玄関ホールでおこなわれました。9日は「信州子ども食堂」が担当。寄付者113名、数量803、総重量424キログラム集まりました。県民と県庁職員の方に御礼申し上げます。



受付窓口には、缶詰やレトルト食品、米などが次々に持ち込まれました



## 県の3課連携で実施

実施にあたっては、県庁の環境部資源循環推進課、健康福祉部地域福祉課、県民文化部子ども・家庭課の3課が連携し、廃棄物の発生抑制の意識を熟成するきっかけとして、職員に「家庭に眠っている食品」のチェックと寄付を呼びかけたとのことでした。

当日は、一般市民の方々も食品を抱え、大勢訪れてくださいました。

## 子ども食堂で笑顔に

集められた食品は、「信州子ども食堂ネットワーク（特定非営利活動法人 NPOホットライン信州）」が生活困窮者の支援と各地の「信州子ども食堂」の活動に活かし、「もったいない」食品ロスを“笑顔”に変えます。



## 「食品ロス」と日本の状況

日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」が年間632万トンあり（平成25年度農林水産省及び環境省推計）、一方、日本の食料自給率は39%（農林水産省公表・平成27年度）と、大量購入し、大量に廃棄する矛盾した状況があります。（長野県のプレスリリースより抜粋）

日本の食品ロスは、1人が1日に「お茶碗1杯分」の食べ物を捨てている計算



日本の食料は6割以上を海外からの輸入に頼っている

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ [0120-914-994](http://hotline-shinshu.jimdo.com/) 特定非営利活動法人NPOホットライン信州ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 熊本県を支援 思い新たに継続

2016年12月17日 熊本県 御船町・菊陽町



向こうには半壊したままの家屋も見え、ようやく道路や家屋の解体工事がはじまっている様子でした



**楽しさいっぱい! の うさぎ食堂**  
熊本地震から8ヶ月。未だに災害の爪あとが生々しく残っている熊本県上益城郡御船町。

高木学童保育うさぎクラブと「信州子ども食堂 in 熊本うさぎ食堂」を開きました。

参加は子ども51名・大人52名あわせて103名。クリスマスカレーと唐揚げ、フルーツ、甘酒、綿あめなどを食べながら、子どもとお年寄りたちの楽しい歓声が響きました。

また、来春に赤ちゃんが生まれるという親子も数組さんかしており、子ども服などを渡し、大変喜んでくださいました。



## ★Xmas サンタさんの子ども食堂

熊本県菊池郡菊陽町にて七色ネットワーク熊本さんの主催で、光の森仮設団地の皆さん、子ども7名と仮設住宅の皆さん併せて30名でクリスマス会を開きました。七色ネットワークの皆さんによる料理、米粉のシチュー、唐揚げをいただき子どもたちがケーキを飾り付け、マジックショーや絵本の読み聞かせ、クリスマスソングを歌いました。仮設住宅に暮らし、普段あまり外に出ないというご家族も参加され、「ほんとに楽しかった、ぜひまたやって」と言ってくださいました。両会場共、暖かい衣類を希望される方が多いとのこと、当方から送った支援の衣類を喜んでくださいました。



「復興するには何年かかるかわからない。これからどうなるか、まったくわからない」そんな不安の声も聞かれました。被災地の現状を見て、NPO ホットライン信州では今後もできる限り様々な形での支援を継続していく思いを新たにしました。

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# 長野市役所で 支援物資を収集

2016年12月20日



長野市役所で、「食品ロスの削減」と「信州子ども食堂への支援（子育て支援）」を目的にした「長野市オフィスフードドライブ」が行われました。

主催は、長野市の環境部生活環境課と子ども未来部子ども支援課。

今回は、食品に加えてクリスマスプレゼントの意味合いも含めると、衣類や学用品など子ども用品の提供も呼びかけてくださいました。昼休みをはさんだ2時間で市職員と市民あわせて140名もの方々から、計1900点ほどの支援物資を「信州子ども食堂（特定非営利活動法人NPOホットライン信州）」へ寄贈していただきました。



6:27 加藤市長  
年末を皆さんがしっかりと年越せるように  
そういう思いを込めた

長野市役所第一庁舎1階の市民交流スペースで、信州子ども食堂ネットワークは「市民受付」を担当しました。

←長野市の加藤市長も支援物資をお持ちくださり、テレビのインタビューに応えていらっしゃいました。



信州子ども食堂 ネットワーク  
クリスマスプレゼントになれたいと  
思って持ってきた



いただいた支援物資の数々は、12月23日（金・祝日）に、長野市の県教育会館とひまわり公園で開く「信州子ども食堂」と「年越しきずな村・きずな塾」、12月25日（日）に、長野篠ノ井ライオンズクラブが主催して長野市の川中島公民館で開く「ライオン子ども食堂」、また県内各地の「信州子ども食堂」と「地震被災地熊本」への支援に活かし、お寄せいただいた「お気持ち」ともにお届けします。



6:27  
「信州子ども食堂」などで提供される他  
地震被災地の熊本にも送られる



<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧いただけます



過去最高

# 100人超 大喜びの1日

2016年12月23日 長野市



2016年12月23日（金・祝日）に長野県教育会館で開いた「信州子ども食堂」は、隣のひまわり公園で開かれた「きずな村」からの飛び込み参加もあって100名を超える大盛況。過去最高の参加になりました。



おしるこ、クリスマスケーキ、りんごやみかんの差し入れもあって、みんな大喜び。

ヒロ・タッキーさんの腹話術と、上野さつきさんの筆文字は大人気。素晴らしく素敵な先生方に、子どもたちは大喜びで感動的な「信州子ども食堂」になりました。




筆文字アートを体験。ほっこりした癒やし文字のアート作品ができました



暖かい日差しの中、親子でもちつきを楽しみました。

あるお母さんは、「うちはクリスマスをしないので、ケーキが食べられて良かった」と、プレゼントを手に喜んで帰られました。

<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください



# ライオン食堂で 楽しいクリスマス

長野市 川中島公民館中津分館



長野篠ノ井ライオンズクラブが2016年12月25日に開いた「クリスマス1日だけのオープン『ライオン子ども食堂』」。

晴天に恵まれ、子ども38名、大人60名の計98名が集まり、大盛況となりました。



メニューはカツカレーとおでん。おかわりが相次ぎ、ライオンズクラブのスタッフが用意した100食以上を完食しました。

## みんなで楽しんだクリスマス

午前中のレクリエーションは、バルーンアート。色とりどりの風船に、子どもたちは大喜び。食後のレクリエーションは、マジックショーとゲーム。子どもたちの喜びの声が会場一杯に響き渡り、子どもも大人も楽しんだクリスマスの1日。

3人の子どもを連れてきたお母さんは、子ども5人を連れてきたお母さんの元気さに驚き、「私も子育てを頑張らなくては」と、子どもたちと一緒に楽しんでいました。



## ますますの連携と拡大に期待

ライオンズクラブのみなさんと信州子ども食堂ネットワークの青木事務局長が教育や貧困問題などについて意見を交わしました。



<編集>信州子ども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ  0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ <http://hotline-shinshu.jimdo.com/> 各地での開催報告や開催日程などをご覧ください